

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）



2024年2月9日

東

上場会社名 東洋合成工業株式会社

上場取引所

コード番号 4970

URL <http://www.toyogosei.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役社長

（氏名） 木村 有仁

問合せ先責任者（役職名） 経理財務部長

（氏名） 篠崎 史朗

（TEL）03-5822-6170

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日

—

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第3四半期の業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	23,095	△10.3	2,628	△31.1	2,529	△37.2	1,724	△37.2
2023年3月期第3四半期	25,747	7.8	3,812	14.7	4,026	20.5	2,745	19.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
2024年3月期第3四半期	円	銭	円	銭				
	217.26	—	—	—				
2023年3月期第3四半期	345.87	—	—	—				

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	56,832	21,097	37.1
2023年3月期	51,105	19,641	38.4

（参考）自己資本 2024年3月期第3四半期 21,097百万円 2023年3月期 19,641百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2023年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00	—
2024年3月期	—	20.00	—	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	31,000	△9.2	2,600	△47.7	2,500	△51.2	1,600	△58.2	201.59	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期3Q	8,143,390株	2023年3月期	8,143,390株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年3月期3Q	206,564株	2023年3月期	206,467株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期3Q	7,936,877株	2023年3月期3Q	7,936,923株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期会計期間及び第1四半期累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前事業年度及び前第3四半期累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(収益認識関係)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期における海外経済は、金融引き締め政策の効果が表れ始め、過度な物価上昇も収束しつつあります。しかしながら、ウクライナ戦争の長期化や中東での紛争など、先行き不透明な状況が続いております。米国では良好な雇用・賃金上昇を背景に個人消費が堅調に推移する一方、欧州では、緩やかな景気後退が続いております。また、中国では、米中対立の影響等による外需の低迷、不動産開発投資の大幅減少と雇用環境の悪化を背景に個人消費も軟調となり、景気は減速しました。その結果、世界全体の製造業関連指標は低迷したものの、経済全体では緩やかな拡大傾向が継続しました。

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、個人消費やインバウンドなどのサービス需要が拡大し、緩やかな景気回復が続きました。また、サービス業を中心に賃金上昇分を価格転嫁する動きも広がりました。

当社事業の主要市場である電子材料業界は、世界的なサプライチェーン上の在庫調整に底打ち感が見られたものの、市場回復は緩やかであり、需要低迷が継続しました。

このような状況のなか、2023年3月期からスタートした、5カ年の中期経営計画「Beyond500」を推進し、需要回復が期待される半導体市場への供給力強化に取り組んでまいりました。しかしながら当第3四半期は、期初からの半導体需要の低迷と在庫調整などの影響を受け、売上高は23,095百万円（前年同期比△2,651百万円、△10.3%）と減少しました。利益面につきましては、継続的な生産性改善や販売量減少に対応したコスト抑制、在庫の削減などに取り組んだものの、売上高減少により営業利益は2,628百万円（前年同期比△1,184百万円、△31.1%）、経常利益は2,529百万円（前年同期比△1,497百万円、△37.2%）、四半期純利益は1,724百万円（前年同期比△1,020百万円、△37.2%）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(感光性材料事業)

半導体向け材料は、サプライチェーン上の在庫調整に目途が立ち始めたものの、マーケットの回復は緩やかであり、需要低迷が継続しました。中国を中心とした大型液晶パネル生産はやや軟調ながらも、ディスプレイ向け材料は一定レベルの需要が維持されましたが、半導体向け材料の売上減少をすべて補うまでには至りませんでした。

この結果、同事業の売上高は13,775百万円（前年同期比△1,636百万円、△10.6%）、営業利益は1,710百万円（前年同期比△775百万円、△31.2%）となりました。

(化成品事業)

電子材料関連製品は、在庫調整からの回復が続きましたが、期初からの景気減速や世界的なインフレによるスマートフォンやPCなどの民生品向け需要低迷の影響を受け、前年同期比で売上は減少しました。

香料材料関連製品は、トイレットリー向け香料の需要が回復し、海外販売が好調に推移したことから、前年同期比では売上が増加しました。

ロジスティック関連は、サプライチェーン上の在庫調整や需要の弱さから荷動きの低迷が継続しているものの、旺盛なタンク需要によりタンク契約率は高水準で推移しました。

この結果、同事業の売上高は9,320百万円（前年同期比△1,015百万円、△9.8%）、営業利益は917百万円（前年同期比△408百万円、△30.8%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態は、前事業年度末対比で次のとおりであります。

当第3四半期会計期間末における総資産は56,832百万円となり、前事業年度末比5,727百万円の増加となりました。

流動資産は21,872百万円で、前事業年度末比187百万円の増加となりました。これは受取手形及び売掛金194百万円の増加などによるものであります。

固定資産は34,960百万円で、前事業年度末比5,539百万円の増加となりました。これは主に取得による増加7,825百万円、減価償却による減少2,173百万円によるものであります。

流動負債は22,080百万円で、前事業年度末比2,528百万円の増加となりました。これは主に短期借入金1,000百万円の増加、設備関係未払金2,766百万円の増加によるものであります。

固定負債は13,654百万円で、前事業年度末比1,742百万円の増加となりました。これは主に、長期借入金1,564百万円の増加によるものであります。

純資産合計は21,097百万円で、前事業年度末比1,455百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益1,724百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間の業績は、需要減退に伴い操業を落とした結果、原価が上昇するとともに在庫評価益が発生し、2023年11月10日に公表いたしました2024年3月期の通期利益予想値を超過しております。しかしながら、第4四半期には、在庫評価益も解消され、費用増加も見込まれることから通期業績予想は据え置きとしております。

今後の事業動向を踏まえ、業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,252	3,524
受取手形及び売掛金	5,912	6,107
商品及び製品	8,351	8,305
仕掛品	347	95
原材料及び貯蔵品	3,060	2,648
その他	767	1,197
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	21,685	21,872
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,833	10,763
機械装置及び運搬具（純額）	7,914	6,940
土地	4,912	4,912
建設仮勘定	3,244	9,459
その他（純額）	734	787
有形固定資産合計	27,639	32,863
無形固定資産		
その他	607	1,028
無形固定資産合計	607	1,028
投資その他の資産		
その他	1,172	1,068
投資その他の資産合計	1,172	1,068
固定資産合計	29,420	34,960
資産合計	51,105	56,832
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,943	3,181
短期借入金	5,100	6,100
1年内返済予定の長期借入金	3,481	4,201
設備関係未払金	3,713	6,480
未払法人税等	477	232
賞与引当金	792	356
その他の引当金	50	35
役員退職慰労引当金	1	—
その他	990	1,492
流動負債合計	19,551	22,080
固定負債		
長期借入金	9,312	10,876
退職給付引当金	1,888	2,021
役員退職慰労引当金	90	101
その他	620	655
固定負債合計	11,912	13,654
負債合計	31,463	35,735

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,618	1,618
資本剰余金	1,541	1,541
利益剰余金	16,488	17,895
自己株式	△92	△92
株主資本合計	19,556	20,962
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	85	133
繰延ヘッジ損益	—	1
評価・換算差額等合計	85	134
純資産合計	19,641	21,097
負債純資産合計	51,105	56,832

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	25,747	23,095
売上原価	18,827	17,439
売上総利益	6,919	5,656
販売費及び一般管理費	3,106	3,027
営業利益	3,812	2,628
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	10
為替差益	262	—
受取家賃	17	15
受取保険金	—	61
生命保険配当金	11	12
その他	34	18
営業外収益合計	334	118
営業外費用		
支払利息	80	89
為替差損	—	110
その他	40	16
営業外費用合計	120	216
経常利益	4,026	2,529
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	58	27
特別損失合計	58	27
税引前四半期純利益	3,968	2,502
法人税、住民税及び事業税	975	626
法人税等調整額	247	151
法人税等合計	1,223	778
四半期純利益	2,745	1,724

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上額 (注)
	感光性材料事業	化成品事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	15,411	10,335	25,747	—	25,747
外部顧客への売上高	15,411	10,335	25,747	—	25,747
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	230	230	△230	—
計	15,411	10,565	25,977	△230	25,747
セグメント利益	2,486	1,326	3,812	—	3,812

(注) セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上額 (注)
	感光性材料事業	化成品事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	13,775	9,320	23,095	—	23,095
外部顧客への売上高	13,775	9,320	23,095	—	23,095
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	252	252	△252	—
計	13,775	9,572	23,348	△252	23,095
セグメント利益	1,710	917	2,628	—	2,628

(注) セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。